

「ジオ新町レジデンス」に、ニューノーマル対応施策を導入
～ 全戸玄関前に宅配ボックスを設置するほか、共用ワークスペースを確保します～

阪急阪神不動産株式会社（本社：大阪市北区、社長：諸富隆一）では、大阪市西区の新町地区で、2020年12月上旬から販売開始予定の「ジオ新町レジデンス」（総戸数69戸）におきまして、新型コロナウイルスを契機としたライフスタイルの変化（ニューノーマル）に対応するための各種施策を導入しますので、お知らせします。



当社では、今後建設する当社の新築分譲マンション〈ジオ〉におきまして、ニューノーマルに対応するため、商品企画を見直すプロジェクトに取り組んでいます。その過程において、現在のお客さまのニーズを的確に把握するため、従業員や当社の分譲マンションのご購入者等を対象に、去る6月から7月にかけてアンケート調査を実施しました。

その結果、在宅勤務経験者の6割強に困りごとがあり、特に、「インターネット通信速度」と「在宅ワークスペース」の満足感が低いという結果が得られたほか、共用部の使い方やウイルス対策の課題、宅配ボックスのニーズがあること等が判明しました。

▼<https://geo.8984.jp/project/index.shtml>



宅配ボックス



共用ワークスペース（イメージ）

そこで、今回の「ジオ新町レジデンス」におきましては、これらの課題を少しでも解消するために、先行的に、①全戸玄関前宅配ボックスの設置、②インターネット10Gbps対応、③共用ワークスペースの確保といった施策を実施することとしました。

今後、当社におきましては、更にニューノーマル対応施策の検討を進め、引き続き、更なるニューノーマル対応施策を講じていく予定です。

詳細は、別紙のとおりです。

以 上

■ジオ新町レジデンスに導入するニューノーマル対応施策

- ① 全住戸に宅配ボックス・トランクルームを設置
 共用部への設置が一般的な宅配ボックスを、各住戸の玄関前に設置します。これにより、住人間での接触機会が減少するとともに、通信販売の利用ニーズの拡大に対応可能となります。
 また、在宅ワークスペースを確保するため、大型荷物を収納できるトランクルームを全住戸前の共用部に設置します。これにより、居住空間の有効活用を可能にします。



宅配ボックス



扉を開いた状態

- ② インターネット 10Gbps 対応

同居家族の複数人が自宅のインターネット環境にアクセスする際や、共働き世帯において同時に WEB 会議を実施する際にインターネットの通信速度が低下

したとの結果が出ました。これを受け、「ジオ新町レジデンス」では、マンションまで最大 10Gbps の光ファイバー回線を収容局から専有回線として提供するため、複数ユーザーと共有する一般的な共有型回線に比べ、他ユーザーのトラフィック影響を受けにくい、高速・高品質なインターネット環境をご利用いただけます。



- ③ 共用ワークスペースの設置

共用部に、マンションの住人であれば誰でも利用可能なワークスペースを設置します。これにより、マンション内の自宅とは異なるスペースでリモートワークが可能になり、「仕事とプライベートの切り替えが難しい」という在宅勤務時の課題解決の一助となります。



共用ワークスペース (イメージ)

【物件概要】

■「ジオ新町レジデンス」

名称	ジオ新町レジデンス
所在地	大阪市西区新町3丁目22-2 (地番)
敷地面積	730.32 m ²
建築面積	475.19 m ²
延床面積	5,119.30 m ²
構造・規模	鉄筋コンクリート造 15階建
総戸数	69戸
竣工	2022年1月 (予定)
ホームページ	https://geo.8984.jp/shinmachi/

